

ダンスを用いた社会課題の解決の試み

— 防災ダンス教材『ぼうさいPiPit！ダンス』の開発 —

酒向 治子 ・ 吉村利佐子*

2019年より、岡山大学では学生が企画・運営の主体となり、岡山市・こくみん共済 coop 岡山推進本部との産官学連携体制のもと、ダンスを用いた防災教育教材『ぼうさいPiPit！ダンス』の開発と普及啓発活動を行う「防災ダンスプロジェクト」が始動した。大学を中心としたダンスを用いた社会課題解決の取り組みは全国的に見ても少なく、この防災ダンスの活動は先駆的な取り組み事例である。本稿では、特に教材の開発に焦点をあて、その制作過程を踏まえつつ、教材の全体的な方向性・学習内容・振り付け・音楽の特徴を整理・分析を行なうことで、今後のダンスを用いた地域社会の課題解決に関する基礎的資料を得ることを目的とする。

Keywords：防災教育，防災ダンス，身体表現，シェイクアウト，産官学連携

I. 背景および目的

I-1. ダンスの社会的価値

一般的に「ダンス」というと、ヒップホップをはじめとするエンターテイメント型のリズムダンスや、バレエや日本舞踊など、ハイアートとしての芸術性を志向するものを思い浮かべる人が多い。これらは、作品創作を軸として、「創る・踊る・観る」の一連のプロセスを包含する、いわゆる鑑賞型の「上演文化としてのダンス」といわれるものである。

一方で、「ダンスを通して〇〇を学ぶ」という、ダンスがもつ機能を活かして豊かな社会を目指そうとする、手段としてのダンスを活用する分野がある。欧米に端を発する「ダンス・セラピー」や、地域活性化を理念とする「コミュニティダンス」など、教育・医療・福祉など様々な分野でダンスが採り入れられてきた歴史がある。

それではダンスがもつ機能とは何か。ダンスをめぐる研究・実践動向をまとめると、主に以下の3つに大別される。

【1：人間の資質・能力を醸成する力】

ダンスは、身体による創造性・想像性・感性・コミュニケーション能力等の多岐にわたる人間の資質・能力を育む手段として有効とされる¹⁾。

【2：コミュニティを活性化させる力】

非言語的なコミュニケーションツールであるダンスは、盆踊りや社交ダンスといった様々な形で、地域社会の人々の交流を促進する手立てとして活用されている。

【3：心身の健康づくりに寄与する力】

ダンスがもつ運動文化の側面は、子供から高齢者まで幅広い年齢層を対象として、人々の健康を育む手段として用いられている。先に触れたダンス・セラピーでは、医療や福祉の現場で心理療法としてダンスが用いられている。

こうした中で筆者らは、これまで見過ごされる傾向にあり、しかしながら社会的価値として大きな可能性を有するダンスの力として、「知識の体得を促す力」に着眼した。本稿は、この力を基盤として展

岡山大学大学院教育学研究科 生活・健康スポーツ学系 700-8530 岡山市北区津島中3-1-1

*岡山大学教養教育非常勤講師 700-8530 岡山市北区津島中3-1-1

An Attempt to Solve Social Issues Using Dance - Development of Disaster Prevention Dance Material "Bosai PiPit! Dance" -

Haruko SAKO and Risako YOSHIMURA*

Division of Life, Health, and Sports Education, Graduate School of Education, Okayama University, 3-1-1 Tsushima-naka, Kita-ku, Okayama 700-8530

*Part-Time Lecturer, Liberal Arts Education, Okayama University, 1-1-1 Tsushima-naka, Kitaku, Okayama 700-8530

開された、学生主導のダンスプロジェクトの一連のプロセスをまとめたものである。以下では、「知識の体得」が意味することについて、概略的に説明したい。

大量の情報が氾濫する社会において、必要に応じた情報を取捨選択し、身につけていく力は、AI時代を生き抜くための必須である。そして近年着目されているのは、知識を「頭」だけではなく、「体」を伴って学ぶことの有効性である。古くは「意味飽和 (semantic satiation)」という心理現象で知られているように²⁾、心理学領域を中心として身体運動と人間の認知活動を関連づけた研究は数多くなされてきた。

また、わたしたちのもっている知識には、身体知と呼ばれる意識下の知がある。日常動作の多くは身体知によって行われており、身体知を豊かにするためには、まさに「身」をもって学んでいくしかない。しかしながら、身体運動の省エネ化が進むAI時代において、「身」を伴う学びは逆にその機会が奪われつつあるといっても過言ではない。人々をいかに身体運動に向かわせるかは、今後の現代の大きな社会的課題の一つになるだろう。

そうした中で、ダンスの律動運動がもたらす快感情は、人々を身体運動へ向かわせるための手立てになる可能性が高い。たとえば、ダンスを「知の体得」の手段とした代表的な例として「いかのおすし」ダンスが挙げられる。これは、警視庁が考案した防犯標語「いかない、のらない、おおきな声を出す、すぐ逃げる、しらせる」をダンス化した教育コンテンツで、学校教育現場を中心に全国的に取り組まれている。近年では、ダンスを用いて九九や元号を覚える教材など、ダンスがもたらす「楽しい」という快感情に着目し、ダンスを通した身体による学びを促そうとする試みが注目されるようになってきている。筆者らは、このダンスを媒介とした「知識の体得を促す力」に着目し、社会の課題解決にこの機能を役立てないかと思うに至った。

I-2. ダンスを用いた大学発の社会課題解決の試み

昨今、教育の分野ではSociety5.0において必要とされる能力を育成するために、課題解決型学習PBL (Project Based Learning) をはじめとするアクティブラーニングの拡充が進められ、現代社会の課題解決と関連づけて学習者の学びを促すことに重きが置かれるようになった。大学においては、特に産官学連携による質の高いPBL型教育の実践が求

められており、産業振興や、優秀な人材の還流・定着といった地域の活性化への寄与が期待されている(文部科学省, 2021)。こうした状況を背景として、2019年に岡山大学教育学部生と岡山大学大学院教育学域の大学院生を中心に学部を超えた多様な学生が集まり、社会課題解決型プロジェクトに取り組むことになった。最終的なテーマとなったのは「防災」であった。

「防災」がプロジェクトのテーマとなった背景には、2018年に岡山県が西日本豪雨で甚大な被害を受けたことを機に、防災教育への関心が高まっていたこと、また全国的にも「防災」が重要な社会課題として注目を集めていたことなどが挙げられる。防災の分野では、災害発生時、迅速に対応できるよう、訓練等を通して、あらかじめ実践的に命を守る行動を身につけることが重視されている。しかしながら、国内における防災活動に対する関心は高いものの、実際の行動に結びついていない、すなわち身体知化されていない現状が問題となっていた³⁾。

以上の流れの中で、ダンスの「知識の体得を促す力」を「防災教育」に活かそうとする大学生主導、産官学連携体制による社会課題解決プロジェクトが始動することとなった。具体的には、災害時に命を守るための動作を、ダンスを通して楽しく身につけることができるような新たな防災教育コンテンツ「防災ダンス」の開発を目指した。

II. 「防災ダンス」の開発

II-1. 産官学連携によるプロジェクト推進体制

本プロジェクトは、岡山大学・企業(こくみん共済coop岡山推進本部/以下、こくみん共済coopと示す)・行政(岡山市)との産官学連携体制で進められた(図1)。プロジェクトの実働部隊である岡山大学では、学生が中核となり、全体の企画運営・教材制作・効果検証・地域や教育機関に向いて教材の実践指導など多岐にわたる活動を行なった。プロジェクトに必要な経費については、補助金の申請や外部組織への働きかけを学生が中心となり取り組んできた。図1に防災ダンス教材の開発体制を示す。本教材は、岡山大学・企業(こくみん共済coop岡山推進本部/以下、こくみん共済coop)・行政(岡山市)との産官学連携体制で開発を行なった。

プロジェクトの実働部隊である岡山大学では、学生が中核となり全体の企画や運営をはじめ、教材の開発後は学術的観点から効果検証を実施し、地域や

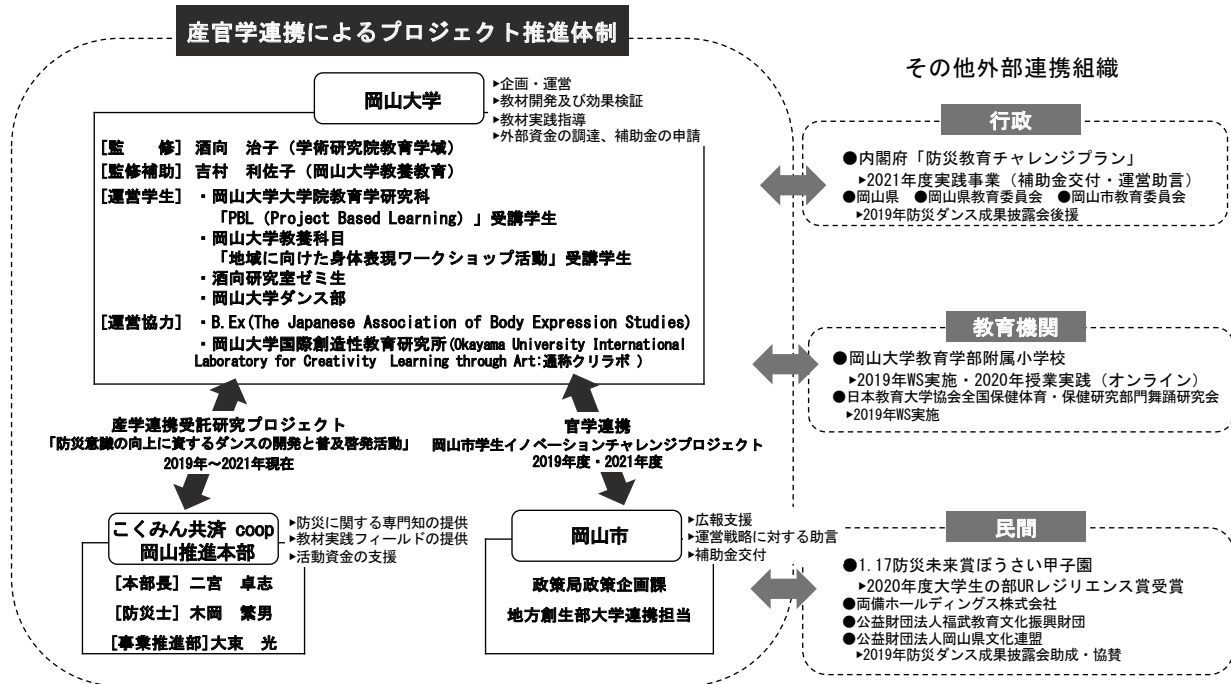


図1 産官学連携による防災ダンスプロジェクトの推進体制

教育機関に向いて教材の実践指導を行うなど、多岐にわたる活動を行なっている。

こくみん共済 coop とは、岡山大学との受託研究プロジェクト「防災意識の向上に資するダンスの開発と普及啓発活動」として、連携体制を築き、活動を行なっている。こくみん共済 coop は、社会活動として以前から防災・減災活動に積極的に取り組んでいる企業である。今回のプロジェクトでは、防災に関する専門的知識の助言をいただくほか、開発の全プロセスを通して協働的な意見交換を行ってきた。

岡山市とは、岡山市が実施している「2019年度岡山市学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクト実践事業」（地域の課題解決を目指した大学生の取り組みに対する支援）の実践事業として連携体制を築き、教材の開発を行なった。2021年度においても、実践事業として防災ダンスの活動は採択されており、特に教材の普及啓発活動に対して支援していただくことが決定している。

これまでの防災ダンスの開発や普及啓発の取り組み⁴⁾は（参照：巻末資料①）、2019年度には岡山市学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクトで審査員特別賞を、2020年度は1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」でURレジリエンス（減災）賞と第1回岡山大学SDGs推進表彰（President Award）で奨励賞を受賞し、2021年度は内閣府が主催する「防災チャレンジプラン」の採択事業になっている。

II-2. 教材「ぼうさいPiPi! ダンス」の開発

教材の開発過程は主に4つの段階に分けられる（図2）。



図2 教材の開発プロセス

(1) 教材の土台となる方向性の検討

開発の初期段階（2019年3月～7月）では、教材の土台となる方向性について検討を行なった。具体的な検討過程は以下の通りである。

[1] 企業との打ち合わせ①

日付：2019年3月15日／参加者：岡山大学教員1名／学生1名・こくみん共済 coop 3名／場所：こくみん共済 coop 岡山推進本部会議室／内容：大学側から企画書の提出および教材の学習内容に関する検討

[2] 学生による具体的な方向性の検討（図3）

日付：2019年4月～6月／参加者：岡山大学教員1名／学生20名／場所：岡山大学教育学部／内容：コンセプトをはじめ、対象世代・振り付け・音楽といった教材の具体的な内容

に関するアイデア出し

[3] 企業との打ち合わせ② (図4)

日付：2019年7月1日／参加者：岡山大学教員1名／学生3名・こくみん共済 coop 2名
／場 所：こくみん共済 coop 岡山推進本部
会議室／内容：学生による検討結果の報告およびそれを踏まえた企業側からの意見聴取・教材の名称決定

[4] 行政からの意見聴取

日付：2019年7月27日／参加者：岡山大学学生4名・岡山市役所職員・岡山市学生イノベーションチャレンジ参加団体／場所：西川アイプラザ4階会議室／内容：岡山市学生イノベーションチャレンジ推進プロジェクトキックオフミーティングでの活動報告および岡山市・その他参加団体からの意見聴取

このように、学生メンバーによって出されたアイデアを元に、企業や行政からの意見を取り入れながら、次に記述する教材の方向性が決まっていた。

1. 防災に関連した学習内容

防災ダンスでは、防災に関する3つの心構え「動けるように備える」「確認する」「助け合い」を身につける教材として開発することが決まった。

1つ目の「動けるように備える」とは、<災害発生時咄嗟に命を守る行動ができるよう、防災ダンスを通して具体的な安全確保動作を身につける>という内容である。具体的には、地震防災訓練シェイクアウトを教材の内容として取り入れることとなった。シェイクアウトを導入することになった背景としては、近年アメリカを中心に世界中で実施者が増加しており日本でも積極的に行われているというこ



図3 教材の方向性を話し合う学生



図4 こくみん共済 coop 岡山推進本部の方々との活動の様子

と、シェイクアウトは「まず低く・頭を守り・動かない」という身を守る動作に焦点化した訓練のため、防災ダンスを開発する上でダンス化しやすい特性を有していたことが挙げられる。また、打ち合わせの初期段階から、岡山県内でのシェイクアウト実施者を増やしたいという企業側の希望を伺っていたこともあり [1]、防災ダンスで身につける主要な動作にシェイクアウトを設定することとなった。

2つ目の「確認する」とは、＜災害に備えて身の回りの危険の有無や備蓄を日頃から確認する意識を持つ＞という内容である。ハザードマップなどで生活圏内の危険な場所を事前に把握することや、水や食料など非常時に必要な物を準備するなどの、災害が発生する前に具体的にどのように身の回りを確認するのかという知識の習得を目的にしている。

3つ目の「助け合い」とは、＜地域の人々と協力して助け合う共助の精神を持つ＞という内容である。災害発生時、共助によって命が救われた例は非常に多く、常日頃から地域における人と人との繋がりを育むことが重要である。学生による教材のアイデア出しでは、非言語コミュニケーションツールとしてのダンスの機能を生かし、教材のテーマに『絆』や『繋がる』を掲げたいという意見が積極的に出された [2]。こうした背景から、防災ダンスの主な学習内容の一つとして「助け合い」が設定されることとなった。

2. 取り組みやすさの重視

防災ダンスは、これまで黒崎ら (2007) と Shojiら (2020) によって実践研究が行われてきた。両研究では、学習者から防災ダンスに対する肯定的評価を獲得しているものの、「取り組みやすさ」の面では課題があげられる。具体的には、黒崎らの実践においては、ストリートダンスという習熟した技能を要する身体語彙を用いていることから指導者・学習者の双方において動きの習得が難しい点、Shojiらの実践においては防災ダンスを搜索するプログラムであることから、実施に時間を要する点が具体的な問題として指摘できる。

このことから、今回の防災ダンスは「取り組みやすさ」に焦点を当てて開発することとなった。[1]～[4]の検討では、以下の方針が具体的に立てられた。

- ・繰り返しを用いた全体の構成…覚える要素をできるだけ少なくするために、音楽や振り付けは学習内容に対応した3つの要素を繰り返す構成にする。

- ・簡易な動きで構成された振り付け…ダンスの特定ジャンルの動きを用いるのではなく、練習が必要の

ない誰にでもできるシンプルな動きで振り付けを構成する。

- ・踊りやすいリズムの音楽…踊ることに苦手意識を持つ人でも、自然に体が弾むリズムで音楽を構成する。

3. 楽しさの喚起

教材の方向性を検討する中で、企業の方や学生からは、単発ではなく何度も繰り返して継続的に実施できるように「誰でも楽しく取り組むことができる」内容を求める声が多く上がっていた。

実際、我が国では実践的な防災活動が積極的に行われていない現状があり、その要因の一つとして、「堅苦しい」「面倒くさい」といった防災活動にまつわる負のイメージが挙げられている⁵⁾。その為、防災活動の負のイメージを払拭するような「楽しい」防災教育教材を開発し、人々の防災活動に対する心理的な壁を取り除くことが求められている。

こうしたことを踏まえ、学習者の「楽しさ」を喚起させる方向性で防災ダンスの開発を進めることとなった。

(2) 世界観及びイメージキャラクターの考案

教材の方向性が固まったのち (2019年7月)、音楽や振り付けの創作に取り掛かろうとした。しかしながら、部分的なアイデア (音楽に取り入れたい効果音や歌詞に入れたい単語など) は出てくるものの、それらを包括する教材の全体的なイメージ像が浮かび上がってこない状況に陥り、創作が難航する事態に陥った。

そこで、音楽や振り付けの核となる教材全体の世界観および教材のシンボルとなるイメージキャラクターの考案を同時進行で行うことになった。

世界観・イメージキャラクター考案の過程は以下の通りである。

[1] アイデア出し

日付：2019年7月9日／参加者：岡山大学教員1名／学生20名／場所：岡山大学教育学部／内容：世界観・イメージキャラクターの案出し

[2] 世界観・キャラクターの完成

日付：2019年9月9日／参加者：岡山大学教員1名／学生2名／場所：岡山大学教育学部／内容：世界観・キャラクターの原案完成

[3] イラストデザインの完成

日付：2019年11月／参加者：岡山大学教員1名／学生20名・はぎわら万砂子 (バランスサイズ・ジャパン)／内容：世界観・キャラクターの

デザイン完成

こうしたプロセスを経て、最終的には教材の世界観「あんしんの森」と、イメージキャラクターとしてそこに住む住人「あんしんの森の住人AJ（えーじえー）」が誕生した（図5）。



イメージキャラクター
AJ（あんしんの森の住人）



世界観
あんしんの森

図5 完成したイラストデザイン

(3) 楽曲制作

本教材の開発で最も試行錯誤を重ねたのが、楽曲制作である。楽曲は、約半年間の時間をかけ学生が歌詞や曲調を考え、制作会社OMP株式会社の協力のもと6曲の試作を行い、完成させた。

[1] 歌詞・メロディーのアイデア出し

期間：2019年7月～8月

[2] 原案の完成

日付：2019年9月24日

[3] 歌詞・メロディーの修正

期間：2019年9月下旬～10月中旬

[4] ボーカル音源の収録

日付：2019年10月29日／場所：岡山大学教育学部音楽棟／参加者：岡山大学教員2名、学生6名・古城洋次、中村ヒロキ（OMP株式会社）・小学生2名（図6）

[5] 楽曲の最終調整

期間：2019年11月

[6] 楽曲の完成

日付：2019年12月13日



図6 ボーカル音源を収録する様子

完成した楽曲の特徴は以下の通りである。

1. 踊りやすさを重視した曲調

全体的な曲調に関しては、聴くための音楽ではなく「踊るための音楽」という方向性を持って制作に取り掛かった。踊ることを前提とした既存の楽曲としては「ダンス・ミュージック」やエアロビクスなどの「エクササイズ・ミュージック」といったジャンルが存在し、また、音楽と踊りの両方が印象に残るよう工夫されたものに、アイドルがリリースしている音楽や、アニメのオープニング曲等が挙げられる。防災ダンスの楽曲に関しても、学習者が身体を楽しく動かすことができるよう、こうした踊るための楽曲の要素を取り入れることとした。学生が中心となって、既存の踊りやすい音楽についてその特徴を洗い出し[1][2]、その結果、元気よく歌い上げる・サビに向かって勢いが増す・強めて身体が縦ノリするビート等の工夫を防災ダンスの楽曲に取り入れることとなった。

2. 学習内容と対応した構成と歌詞（図7）

楽曲の構成や歌詞に関しては、3つの学習内容と対応させることで、学習者の取り組みやすさを促すことを目指した。完成した楽曲では、学習内容と対

応したA・B・Cの3つのセクションを繰り返す構成になっている。歌詞については、説明的ではなく、耳に残りやすい感覚的な言葉の繰り返しを用いることで、覚えやすいものになるよう工夫した。

セクションAは、「助け合い」の心構えを学ぶパートとして位置づけた。イメージキャラクターAJの名前を連呼する歌詞にすることで、教材の世界観である〈あんしんの森で沢山のAJたちが日頃から助け合って生活するイメージ〉を喚起させることを狙った。

セクションBは「動けるように備える」心構えを学ぶパートとして位置付けた。このセクションは、シェイクアウトの3つの動作を振り付ける前提に制作した。歌詞を作成する際には、シェイクアウトの動作が、亀が甲羅に頭を引っ込める様子と似ていることから、「カメ・カメ・キュッ」というフレーズを採用し、このフレーズを繰り返すことでシェイクアウトの動作がダンスの中で何度も練習できるように構成した。

セクションCでは「確認する」心構えを学ぶパー

トとして位置付けた。歌詞では、セクションCに入ったことを合図するために「確認しまーす!」という呼びかけを冒頭に挿入し、ダンスの構成を覚えていなくても身体が勝手に動くよう工夫した。また、身が引き締まる笛の音をイメージした「ピッ」という言葉を連呼することで、日頃から緊張感を持って身の回りの危険や災害への備えを確認しなければならないことが、感覚的に学習者が歌詞から受け取れることを目指した。

(4) 振り付けの創作

防災ダンスの振り付けは、教材の世界観やイメージキャラクター・楽曲の原案が完成したタイミングで、本格的に創作に取り掛かった。完成した振り付けの詳細は巻末資料②に掲載している。

[1] 原案の創作

日付：2019年9月29日／場所：岡山大学教育学部／参加者：岡山大学教員1名、学生6名

[2] 高校生を対象にした実践（試し）

日付：2019年10月3日／場所：岡山大学教育

3

ぼうさいPiPit!ダンス：歌詞とセクション

このダンスは3つのセクションに分かれています。
各セクションにはそれぞれのテーマがあります。

セクションA	セクションB	セクションC
<p>みんなでいっしょに！ (助け合い)</p> <p>手を繋いで、助け合う心構えを学ぼう！</p>	<p>備えましょう！ (動けるように備える)</p> <p>地震から命を守る ShakeOutの3つの動き 「しゃがむ・まもる・うごかない」を覚えよう！</p>	<p>確認しまーす！</p> <p>指差し点検の動きで、身の回りの危険の有無を確認する習慣を身につけよう！</p>

前奏(イントロ)	間奏
<p>「さあみんな！起きてる？ 集合！ 元気にいこう！」</p> <p>あんしんの A! じゅうにんの J! あんしんの A! じゅうにんの J! AJ!</p> <p>A あんしんの A! じゅうにんの J! あんしんの A! じゅうにんの J! AJ!</p> <p>カメ カメ キュッ 「カメになるよ〜」(カメカメキュッ) カメ カメ キュッ 「カメになろうよ〜」(カメカメキュッ) カメ カメ キュッ B 「カメになったかな〜?」(カメカメキュッ) カメ カメ キュッ 「Shake Out 〜!」</p> <p>「確認しまーす!」 ピッ・ピッ・ピッ・ピッ… C 「Shake Out 〜!」</p> <p>あんしんの A! じゅうにんの J! あんしんの A! じゅうにんの J! AJ!</p> <p>A あんしんの A! じゅうにんの J! あんしんの A! じゅうにんの J! AJ!</p>	<p>カメ カメ キュッ (カメカメキュッ) カメ カメ キュッ (カメカメキュッ) B カメ カメ キュッ (カメカメキュッ) カメ カメ キュッ 「Shake Out 〜!」</p> <p>「確認しまーす!」 C ピッ・ピッ・ピッ・ピッ… 「Shake Out 〜!」</p> <p>あんしんの A! じゅうにんの J! あんしんの A! じゅうにんの J! AJ!</p> <p>A あんしんの A! じゅうにんの J! あんしんの A! じゅうにんの J! AJ!</p> <p>あんしんの A! じゅうにんの J! あんしんの A! じゅうにんの J! AJ!</p> <p>ナナナナ ナナナナ …♪ AJ!</p>
<p>後奏(エンディング)</p>	

図7 楽曲の構成と歌詞

学部体育棟ダンス室／参加者：岡山大学教員
1名，学生3名・岡山県公立高校生徒20名

[3] 振り付け完成 (図8)

日付：2019年12月9日／場所：岡山大学教育
学部体育棟ダンス室／参加者：岡山大学教員
1名，学生15名



図8 学生が振り付けを創作する様子

創作した振り付けの特徴としては，教材の学習内
容「3つの防災の心構え」に対応した動きで構成し
ている点が挙げられる (図9)。

3つの学習内容	動き
動けるように備える	 地震防災訓練「ShakeOut」の 3つの動作 しゃがむ・まもる・動かない <small>国連 国際防災訓練と防災教育推進会議</small>
確認する	指差し点検の動き 
助け合い	 周囲の人と手を繋ぐ動き

図9 学習内容に対応した動き

「動けるように備える」心構えを身につけるセク
ションBでは，シェイクアウトの3つの動作「まず
低く・頭を守り・動かない」を繰り返す振り付けを
考案した。具体的には，亀をイメージした音「カメ・
カメ・キュッ・効果音」に合わせて「頭を片手で守
る・もう片方の手で頭を守る・しゃがむ・じっとす
る」という動作を当てはめ，地震から命を守る動作
を実践的に身につけることができるよう創作した。

「確認する」心構えを身につけるセクションCで
は，「ピッ」という歌詞に合わせて周囲を指さす動
きを振り付けとして採用した。身の回りを1箇所ず
つ，指をさして点検する動作をダンスの中で繰り返
すことで，周囲の安全を丁寧に確認する習慣が身に
つくよう意図して創作を行なった。

「助け合い」の心構えを習得するセクションAで
は，周囲の人と手を繋いで，左右に飛び跳ねる動き
を振り付けた。防災活動において，地域の人々と日

頃から助け合う姿勢が重要であることを学習者に伝
えるべく，実際に手を取り合ってダンスを踊ること
で，周囲の人との繋がりを肌で感じることができる
ようにした。

Ⅲ. まとめ

本稿では，ダンスを媒介とした<知識を身体に刻
み込む力>に着目し，この機能を用いた地域社会の
「防災」に関する課題解決の試みとして始動した「防
災ダンスプロジェクト」における教材の開発に焦点
をあて，整理・分析を行った。

今後の課題としては，防災ダンスによって命を守
る動作（シェイクアウト）が身についたか否かに関
する効果検証と，実践の対象者に合わせた指導法の
開発等が挙げられる。地域社会において本教材が継
続的に実施されるためにも，学術的観点から教材の
有効性を示し，教育現場等をはじめとする様々な
フィールドにおいて実践可能な指導用コンテンツを
併せて，積極的な普及啓発活動を行っていきたい。

注釈

- 1) 酒向 (2020) は，ダンスが次世代 (Society5.0)
の人材に特に必要とされる能力として「イメージ
力 (想像力) : Imaginative」を中核として，「コミュ
ニケーション力 : Communicative」・「創造性 ;
Creative」・「表現力 ; Expressive」の4つを挙げ
た上で，実践的ワークを提起している。
- 2) 1962年に心理学者レオン・ジェームズによっ
て提起されたもので，文字や音声の言語シンボル
が連続して提示されると，ある一定のところでは
意味がわからなくなる現象をいう。Miller (1963) は，
動作動詞の発音と動作の関連を調べた研究で，動
作なしの条件では意味飽和が早くなることを明ら
かにしている。
- 3) 平成29年度に実施された防災に関する世論調
査では，80%以上の人々が被害に遭うことを具体的
にイメージしたことがある自然災害として「地震」
を回答している。一方で，地震に備えて家具や家
電の転倒等を防ぐ対策をしている人は40%で (内
閣府，2017)，この数値は平成25年度の世論調査 (内
閣府，2013) から変化しておらず，南海トラフ地
震防災対策で設定している65%には達していな
い現状がある (内閣府，2019)。このような国民
の防災意識と実際の行動のギャップは平成20年
版防災白書 (内閣府，2008) でも序章「国民の防
災意識を防災行動へ」で大きく取り上げられてお
り，かねてより指摘されてきた背景がある。
- 4) 本稿では，紙幅の都合上教材の開発に関する内

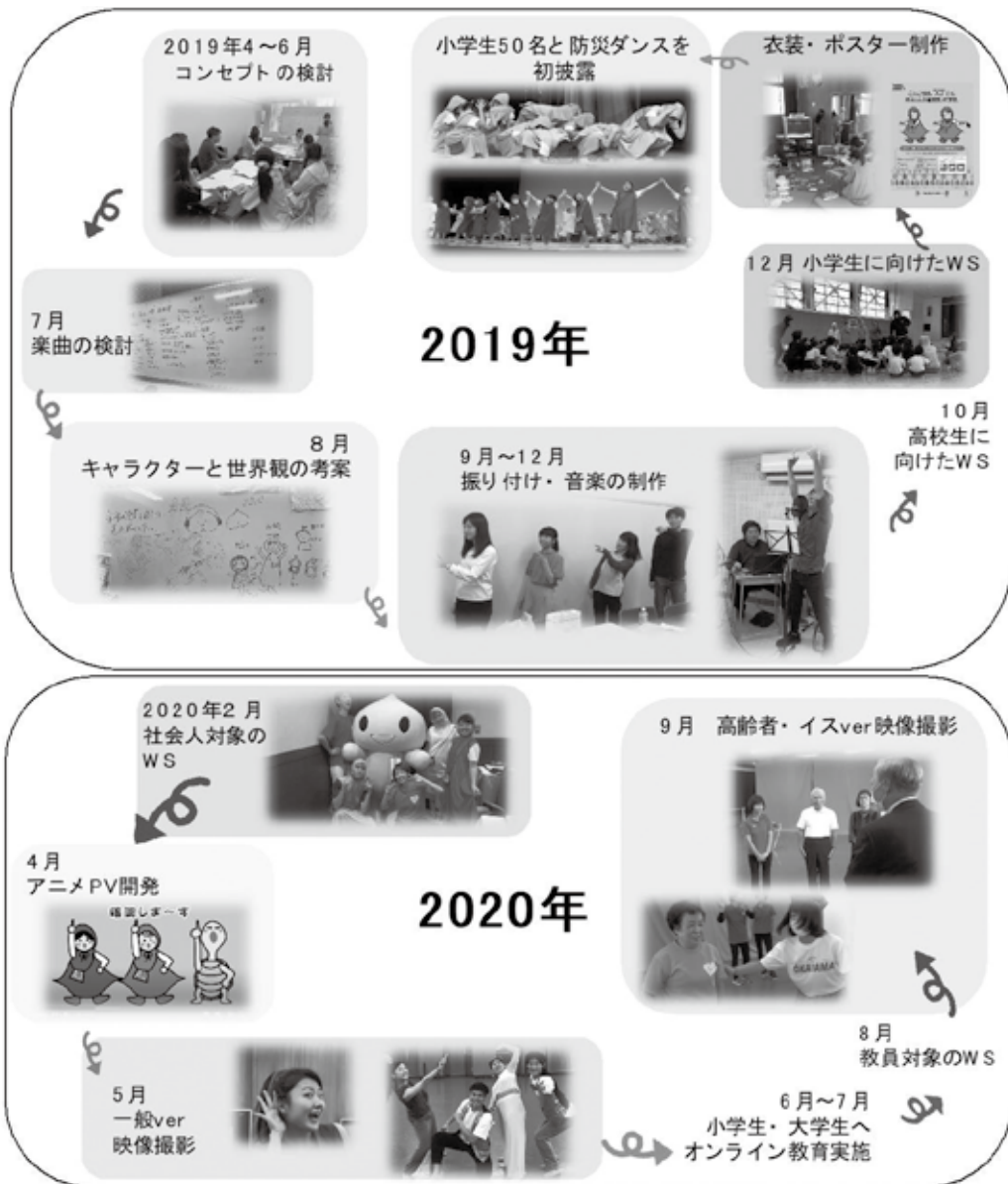
容の記述に限られるが、この防災ダンスプロジェクトは、教材の開発後も教育実践をはじめとする普及啓発活動を継続的に行っており、こくみん共済coop・岡山市だけではなく、その他行政・教育機関・民間企業といった多くの外部組織との連携実績を重ねている（図1，右）。

5) 内閣府主催の地域社会の防災力向上を目指した会議では、これからの防災対策のありかたとして、「できることなら楽しく発展につながる方向に関連づけることが必要」と、防災活動を妨げる原因に負のイメージがあることを前提とした論調で議論が進められた記録が残っている（内閣府，2004）。また、同様に内閣府が出版する「ぼうさい」広報誌（2008）では、さいたま市で開催された防災フォーラムにおいて、地域住民から防災に対して「堅苦しい」「面倒だ」という声が上がっていることを自治体の防災担当者が発表した記録が掲載されている。他にも、地方公共団体（神奈川県川崎市HP；兵庫県尼崎市HP；兵庫県西宮市HP；埼玉県HP）や防災活動を推進する非営利団体において防災活動の負のイメージを問題視する記述が見受けられ（一般社団法人防災ガールHP；一般社団法人防災ジオラマ推進ネットワークHP；公益財団法人中越防災安全推進機構HP），こうした様々な言説を総括すると、防災活動に纏わる負のイメージが人々の防災意識の向上を阻害していることが考えられる。

参考文献

- ・一般社団法人防災ガール；<https://info.bosai-girl.com>. 閲覧2021年8月30日.
- ・一般社団法人防災ジオラマ推進ネットワーク；<https://www.bosai-diorama.or.jp>. 閲覧2021年8月30日.
- ・神奈川県川崎市「自主防災組織の手引き」；https://www.city.kawasaki.jp/170/cmsfiles/contents/0000050/50278/01_h25-2jisyubou-tebiki.pdf. 閲覧2021年8月30日.
- ・黒崎ひろみ，中野 晋（2007）海溝型巨大地震に向けた総合的な沿岸防災教育のあり方と方法. 海岸工学論文集：54， pp.1361-pp.1365.
- ・公益財団法人中越防災安全推進機構「防災教育switch」；<http://furusato-bousai.net/about/>. 閲覧2021年8月30日.
- ・埼玉県：「地域で災害に備える活動（自主防災）」；<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0401/jishubousai.html>. 閲覧2021年8月30日.
- ・酒向治子（2020）舞踊と教育-Society5.0で求められるダンス教育「-映像で学ぶ舞踊学-多様な民族と文化・社会・教育から考える-」. 大修館書店， pp.32-39.
- ・Masahiro Shoji, Yoko Takafuji, Tetsuya Harada（2020）Behavioral impact of disaster education: Evidence from a dance-based program in Indonesia. *International Journal of Disaster Risk Reduction*:45 (101489).
- ・内閣府（2004）平成16年版防災白書；<http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h16/index.htm>. 閲覧2021年8月30日.
- ・内閣府（2008）平成20年度広報誌「ぼうさい」；http://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h20/09/topics_04.html. 閲覧2021年8月30日.
- ・内閣府（2008）平成20年版防災白書；http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h20/bousai2008/html/honbun/1b_0joshou_01.htm. 閲覧2021年8月30日.
- ・内閣府（2013）平成25年度世論調査「防災に関する世論調査」（平成25年12月調査）；<https://survey.gov-online.go.jp/h25/h25-bousai/2-2.html>. 閲覧2021年8月30日.
- ・内閣府（2017）平成29年度世論調査「防災に関する世論調査」（平成29年11月調査）；<https://survey.gov-online.go.jp/h29/h29-bousai/2-2.html>. 閲覧2021年8月30日.
- ・内閣府（2019）令和元年5月31日中央防災会議「南海トラフ地震防災対策推進基本計画」；http://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/pdf/nankaitrough_keikaku.pdf. 閲覧2021年8月30日.
- ・兵庫県尼崎市「むこっ子防災キャラバン」；<https://www.city.amagasaki.hyogo.jp/kurashi/siminsanka/017mukotiiki/1002690.html>. 閲覧2021年8月30日.
- ・兵庫県西宮市「防災啓発について」；<https://www.nishi.or.jp/kurashi/anshin/bosaijoho/shinotaisaku/keihatsukatsudo/bosaikeihatsu.html>. 閲覧2021年8月30日.
- ・Miller, A.(1963) Verbal satiation and the role of concurrent activity. *Journal of Abnormal and Social Psychology*:66, pp.206-212.
- ・文部科学省（2021）ポスト・コロナを見据えた新たな大学教育と産学連携の推進. 採用と大学教育の未来に関する産学協議会2020年度報告書， pp.16.

巻末資料①：防災ダンスプロジェクトの活動プロセス



※参照：メイキング映像



メイキング1
<https://youtu.be/LelsQja148Q>



メイキング2
<https://youtu.be/jfQYAgIDmco>

巻末資料②：防災ダンスの振り付け

4

セクションA (助け合い)



踊りで学ぶこと
手をつないで
助け合う心構えを学ぼう!

5

セクションB (動けるように備える)



踊りで学ぶこと
地震防災訓練の3つの動き
「シェイクアウト(ShakeOut)」を覚えよう!

まずひくく あたまをまもり うごかない

ShakeOutはアメリカで開発された地震防災訓練。直訳すると、「地震を吹っ飛ばせ!」という意味がある。

提供 地震防災訓練と防災研究委員会 <http://www.shakeout.jp/>

6

セクションC (確認する)



踊りで学ぶこと
指差し点検の動きで
身の回りの危険の有無や備蓄について
確認する習慣を身につけよう!